

未熟児訪問指導技術向上研修

未熟児への地域における支援

～ お父さんお母さんはどんな支援を求めているのだろう ～



日 時

2011年12月26日(月)14:30-16:30

主 催

兵庫県阪神北県民局（宝塚健康福祉事務所）

講 師

大阪彩都心理センター 竹田伸子（臨床心理士）

<http://saitokodomo.com/>



内 容

1. 母親の心の動き

未熟児が生まれると、母親は、予想しなかった道のりを余儀なくされます。当然、母親は動揺します。

では、母親は出産してから、どんなことを見聞きし、どんな風に心が動いていくのか、
実際の事例を通して考えてみます。

母親は「コントロール不能」の感覚に陥り、思考や行動が極端になったり、怒りや憎しみが活発に表出されたりします。

危機的状態にある人は皆このようになります。

ですから、これがとても「正常」な状態であることをまず理解しましょう。

では、その状態にある母親と会う時、何と声をかけますか。ポイントは次の5つです・・・。

2. 父親の心の動き

父親は、生と死が隣り合わせになっている赤ん坊と、混乱している妻を前にし、動揺します。

そして、その中であって、手続きなどのために役所や病院を走り回らないといけない状態に置かれます。

この父親の支援はとても大切です。

窓口に来られた父親に対する保健師の最初の大切な支援とは・・・。

3. 母子関係、親子関係の成り立ち

母と子は、授乳やおしめ替えなど日常的な関わりの中で、情緒的なつながりを築いていきます。

しかし、未熟児で生まれ、保育器に入るなどして、医療の必要な赤ちゃんは、お母さんとの肌の触れ合いを通じた情緒的な関わりを持つことはむずかしい。

そうした現実の中で、母親と赤ちゃんが情緒的なつながりを作っていくには、相当な工夫が必要です。

母子の情緒的なつながりの作り方は、病院では教えてもらえません。

これこそ、地域の支援者が担うべきところ、得意とするところではないでしょうか。

4. 兄弟姉妹関係の育みを支える

入院している赤ちゃんに、お兄ちゃんお姉ちゃんが面会することは、なかなか難しいでしょう。

病院の決まりや制約があるかもしれません。

しかし、その制約の中にあっても、兄弟姉妹の出会いとつながりを確保することは大切なことです。

決まりや制約を乗り越える勇気は母親1人ではなかなか持てないので、その点での支援が大切。

5. 子育てという「日常」を支える

例をあげて、ご説明しましょう……。

6. 支援者に求められる姿

例をあげて、ご説明しましょう……。

～*～*～*～ 参加者の感想から ～*～*～*～

危機的な状況にある人に関わることは、関わる側も覚悟のいることで、自分に何ができるか本気で考えさせられました。

母親がどのように思っているのか、地域の保健師がどのように母親や家族に関わって行くのかがよく分かった。

心にグッときました。母の心の痛み、お兄ちゃんの痛み、胸が痛みます。私に何が出来るのか？母の気持ちに寄り添っているのか。今後の私の課題です。

とてもよいお話が聞けました。今までズカズカと相手の心を踏み荒らしていたのではないかと反省しています。

未熟児を持つ家庭、家族の思い遣りや葛藤を知ることができました。何かをアドバイスすると言うより、寄り添うことが大切だと思いました。

大切な体験を社会のためにと言うことでお話し下さったと思います。実体験と言うこともあり胸の詰まる思いをずっとしていました。感謝いたします。

自信がないということで逃げとしている、確かにそうかもしれないと思いました。

